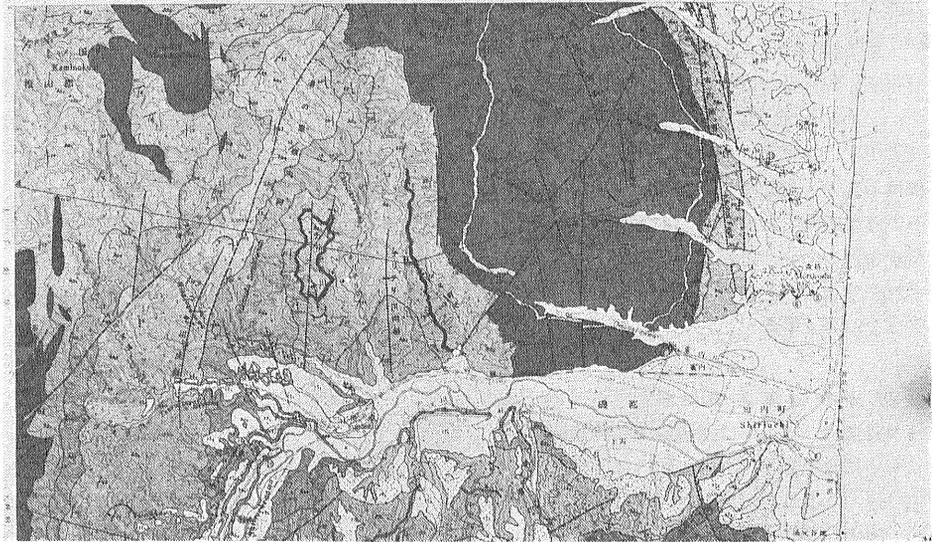


知 内 SHIRIUCHI



5万分の1 地質図幅の新刊

知 内
SHIRIUCHI

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著 者 山 口 昇 一 (北海道支所)

発 行 工 業 技 術 院 地 質 調 査 所

取 扱 先 地 学 文 献 セ ン タ ー (0423) 62—5050

- 知内地域は 北海道渡島半島の南端近くに位置し 津軽海峡を隔てて本州津軽半島の竜飛岬を望むことができる。地域のほぼ中央湯の里付近には 世紀の大事業といわれる 青函トンネルの北海道側入口があり 完成の日がまたれている。また 湯の里の山あいには北海道でもっとも古い温泉の1つといわれる知内温泉があり 季節の山菜料理をだすことで地域住民に親しまれている。
- 地形図をみると 地域の中ほどを西から東に流れる知内川を境に 北側は標高100m 前後の丘陵性の地ぼうを示すが 南側は400~800mとやや急峻で 地質が地形に良く反映している。
- 地質は大部分が新第三系上部の堆積岩類と火山噴出岩類によって占められているが 地域西縁に僅かに基盤の古生層や新

第三系下部の福山層が顔をのぞかせている。

- 本地域に隣接する「渡島福島」「松前」地域は 西南北海道新第三系の模式地として有名であるが 本地域にはその上部層だけが分布している。それら相互の関係は 20万分の1地質編集図として研究報告書に盛り込まれ 知内地域の地質が理解しやすいように配慮されている。
- 新第三系は檜山層群・イデス川層および知内火山岩類に区分されている。
- 檜山層群は中新世中期から後期の広範囲にわたる海進によってもたらされた一連の海成層で 最下部の大安在川層を除いて ほとんどが泥質相によって占められている。この泥質相をさらに木古内層・厚沢部層および館層と細分し かつ鍵層の追跡もよくおこなわれている。そのため均質な泥質相のなかで地質構造が良く判るよう表現されている。
- イデス川層および知内火山岩類は 鮮新統に属するものとして 本地域ならびに渡島福島地域で初めて記載されたものである。檜山層群を不整合におおっており その関係が地質図に良く現れている。
- 知内火山岩類は海底火山の噴出物で 従来「黒松内型集塊岩」とされていたものようであり 海底火山噴出物の産状・形態などが写真を添えて説明されている。海岸線は非常に露出が良く また 海もきれいで ハイキングを兼ねて海底火山噴出物の産状・形態などを研究するには 恰好のところである。

| | | |
|-------------|-------------------------|-------|
| 地 質 ニ ュ ー ス | 第287号 | 7 月 号 |
| | 定 価 ¥ 450 | 千 50 |
| 昭和53年7月1日 | 発 行 | |
| 編 集 | 工業技術院 地質調査所 | |
| 発 行 人 | 林 久 雄 | |
| 発 行 所 | 株式会社 実業公報社 | |
| | 東京都千代田区九段南4の2の12 | |
| | Tel. (03) 265—0951 (代表) | |
| | 振替口座 東京 32466 | |
| 総発売元 | 大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部 | |
| | 東京都港区赤坂葵町2 | |
| | Tel. (03) 582—4 8 6 6 | |
| 印刷所 | 共同印刷株式会社 | |